

思いやり
一生懸命
笑顔

八幡っ子



酒田市立八幡小学校
令和2年 3月18日
校長 高橋 健

「ふるさとを愛し 夢をもって学び続ける子」



卒業おめでとうございます！

校長式辞

わたしたち教職員の誇り、そして地域の宝物である令和元年度の卒業生諸君、卒業おめでとう。参列できなかった在校生と保護者の方々の分まで、心からの祝福を贈ります。

君たちどのたくさんの思い出の中で、特に心に残り、君たちらしきを感じた出来事、それはなんといっても修学旅行です。

初めに訪れた大川小学校跡。無残に崩れた校舎を目の前に、語り部の佐藤さんのお話を聞きながら、目を潤ませ、心を痛めながらその場にたたずんでいた君たち。人の心の痛みに寄り添い、自分のことのように心を痛め泣する君たちがそこにいました。

バスの中では、自分が持ってきたお菓子を、みんなでにぎやかに仲良く分け合い、冗談を言ったり歌を歌ったりして、笑顔と笑い声いっぱいの子たち。喜びをみんなで分かち合おうとする君たちがそこにいました。

ホテルでの夜の出来事。他校生が買い食いをしているのを見て、なぜ自分たちは買っていけないのかと食ってかかった君たち。私は君たちに言いました。「他校には他校の約束がある。八幡小学校にはみんなで決めた八幡小学校の約束がある。他校に流されずに、自分たちは八幡小学校だという誇りを持ちなさい」と。君たちは一言こう答えました。「分かりました」と。母校に、崇高な誇りを持ち、そして、言い訳やわがままを言わない潔さを持つ君たちがそこにいました。

これが、君たち「にじいろ学年」の姿なのです。苦しみはみんなで分け合って一人分を軽くし、喜びはみんなで分け合ってもっと大きな喜びにする。そして、そんな仲間を誇りに思う強い「絆」で結ばれているのが君たち「にじいろ学年」なのです。

そんな君たちに、一つの言葉を贈ります。「月は欠くとも、光を改めず」

「月は、満月、半月、三日月と形を変えていくが、決してその輝きを変えることはない」という意味です。人に例えると、相手によって態度を変えたり、見た目ばかりを着飾って優しい心や学ぶ心をなくしてしまったり、人に嘘をついたりなどは決してしない、ということです。ぜひ、卒業して「にじいろ学年」がばらばらになっても、君たちが成長して大人になって姿形が変わっても、「苦しみも喜びも分かち合い、自分と仲間に誇りに思う」という君たちの輝きを、いつまでも持ち続けてください。

今日のこの卒業証書授与式もそうです。式の形はこのように変わってしまいましたが、君たちがこの八幡小学校で輝き続けた事実は何も変わりません。堂々と胸を張って、八幡小学校「にじいろ学年」の誇りを持って巣立ってください。

最後に、ここにはいらっしやいませんが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございました。お喜びはいかばかりかとお察いたします。今日に至るまでの日々は、決して順風満帆ではなかったでしょう。発熱やけが、友達とのいざこざ、心配の種を数え上げればきりがありません。本当にお疲れ様でした。

また、ご来賓の皆様、今まで子どもたちを支えてくださり、誠にありがとうございました。今日卒業生31名は八幡小学校を巣立っていきます。しかし、まだまだ皆様のお力が必要です。これからも、是非支え導いてくださるようお願いいたします。

ふと気づくとそこにいる、七色に輝く虹。

でも、見た人を必ず幸せな気持ちにする虹。

卒業おめでとう。「にじいろ学年」。家族への「ありがとう」忘れずに…

